



食育だより 特別号

令和4年10月7日
台東区立黒門小学校
校長 石田 隆

10月は食品ロス削減月間です



食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品をいいます。

日本では年間522万トン発生しているといわれています。

これは、日本人ひとり当たり毎日お茶碗1杯分の食べ物を捨てていることとなります。

国際連合では、2030年までに世界全体のひとり当たりの食料の廃棄を半減させるなどの目標が設定され、世界的にも関心もたれています。食品ロスの問題について、家族で考えてみましょう。

「たいとう食ハピDay」を知っていますか？

「たいとう食ハピDay」とは

台東区では、毎月30日を「たいとう食ハピDay」として、食品ロスを減らしていくための取組を進めています。

「たいとう食ハピDay」という名称は、区民の皆さまからの公募で生まれたもので、区内小学生が考えた名称に決まりました。「食品ロスがなくなって、作る人も食べる人も、みんなが幸せになれるように」という願いが込められています。

食品ロスを減らすために私たちができること

- 必要な分だけ購入する
- 食品の皮のむきすぎに気を付ける
- 食べ残しをしない
- 毎月30日は冷蔵庫の片付けをし、家にあるものを工夫して料理してみる



台東区ホームページでは、「たいとう食ハピDay」に関する毎月おススメの取組を紹介しています。

